

平成24年7月25日発表

担当課：熊谷図書館

(熊谷市) 記者クラブ取材情報

事業の名称等 「第6回自然科学展（通算31回）

～さいたまの多様な生き物たち～」の開催について

- 実施日時等 平成24年7月21日（日）午前・午後9時00分
～平成24年9月2日（日）午前・午後6時00分まで
- 会場・主催地 熊谷市立熊谷図書館 美術展示室
- 主催者・関係者
(1) 団体名等 主催：熊谷市立熊谷図書館
(2) 代表者名 熊谷図書館長 齊藤道夫 TEL 熊谷図書館 048 - 525 - 4551
- 事業内容 当館では、夏の企画展として、夏休み期間に合わせた子ども向けの企画展を開催しております。今年度は自然科学展として「さいたまの多様な生き物たち」をテーマに、埼玉県立自然の博物館と共催で、動物のはく製や、個人のコレクションである昆虫標本を展示しております。動物はく製：約200体 昆虫の標本箱：52箱
- 目的・理由 自然科学展として、身近な動物のはく製や昆虫標本を展示することで、動物や昆虫に親しみを感じてもらおうと同時に、身近な生活環境への関心も持ってもらうことを目的としています。
- 経緯・経過 合併前の旧熊谷市から数えて、通算で31回目の自然科学展です。
- 影響・効果 今回展では、外来種やレッドデータブックに記載されている動物も取り上げるので、環境問題などについても考える機会になると思われれます。
- この事業の実施による特記事項 今回展では、「さわれるはく製」を多数展示します。本来はく製は薬品処理をするので触れることができないのですが、特別な処理をした「さわれるはく製」を展示することで、カモシカやサル、クマやモグラ、オナガドリなど、普段触れることができない様々な動物たちに触れることができます。
 - 県内の状況
(ア) 県内で初めて イ. 県内で 番目 実施市別紙のとおり
 - 他市が実施している事業に比べて本市の特色 県内で自然科学系の博物館は県立自然の博物館しかなく、そこと共催で企画展を行い、また通算でも31回という長い間、子どもたちの夏休みの楽しみや自由研究のための自然科学展を開催しているのは、当館だけです。

・他市と同じ

※ 資料の有無（有） ・ 無 ）

担当課 熊谷図書館 担当者 主幹 金子正之

連絡先 TEL 048 - 525 - 4551

～さいたまの多様な生き物たち～



～ごあいさつ～

私たちの住む埼玉県は、秩父の山々をはじめ台地、扇状地、平地と様々な地形があり、さらには荒川や利根川をはじめとした多くの河川が流れています。こうした多様な風景の中に、さまざまな“生き物たち”が私たちと一緒に“生活”をしています。

今回の自然科学展は、「さいたまの多様な生き物たち」をテーマとして、埼玉県立自然の博物館との共催により開催いたします。自然の博物館では、県内に生息している鳥や哺乳類、魚など、たくさんの種類の動物たちははく製を所蔵しています。それら動物たちははく製と合わせて、今回展では身近にすむ昆虫たちの標本も展示いたします。

私たちの身近には、まだまだたくさんの“仲間”がすんでいます。開発により緑が失われていく中、以前は見ることでできた動物たち、昆虫たちも、普段の生活の中でなかなか見ることができなくなってきてしまっている現実があるかと思えます。

今回展でこうしたはく製や標本を展観することで、私たちの郷土・埼玉にすむ“生き物たち”とのすてきな出会いを楽しんでもらいたいと思います。

またこの展示会を通して、私たちの“仲間”であるこうした“生き物たち”が住む環境に関する様々な問題にも関心を持っていただき、地球温暖化やさまざまな災害などによって自然環境が大きく変化していく中で、私たち一人ひとりができることについても、考えていく機会になれば幸いです。

最後に今回展の開催にあたり、多くのご協力をいただきました関係各位に厚くお礼申しあげ、開催のごあいさつといたします。



会期：平成24年7月21日(土)～9月2日(日)

[休館日：毎週月曜日、8/3]

時間：午前9：00～午後5：00

会場：熊谷市立熊谷図書館 3階 美術展示室

(熊谷市桜木町2-33-2 048-525-4551)

主催：熊谷市立熊谷図書館 共催：埼玉県立自然の博物館

◆スタンプクイズ◆

~さいたまの生き物たち~

さいたまには、いろんな生き物たちがすんでいます。
どれだけ名前がわかるかな？
展示室や図鑑でしらべてみよう！！



①

②

③

④

⑤

⑪

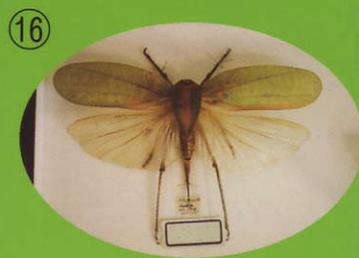
⑫

⑬

⑭

⑮

スタンプをもらおう!



全問正解! おめでとう!

※写真の場所と生息地とは一致しません。

- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ |
| ⑬ | ⑭ | ⑮ | ⑯ | ⑰ |
| ⑱ | ⑲ | ⑳ | | |

～外来動物について～

外来動物とは、もともとは日本にすんでいなかった動物で、日本国内にすみついて、野外で自然に増えてしまっている動物を言います。

すみついた原因は、ペットとして飼っていたものが逃げ出したり、飼うのが大変になって野外に捨ててしまった個体が増えはじめたことなどが考えられます。

外来動物が増えると、昔から日本にいた動物、『在来種』のエサやすむ場所がうばわれたり、在来種との雑種ができて動物のかたちや性質がもともとの種類と違ってきてしまったり、もともと日本にはなかった病気がはやってしまう、などなど、いろいろと大きな問題がでてきています。

ですから、家で飼っている外国産のカメや魚、クワガタムシやカブトムシなども、『かわいそうだから』『飼うのが大変になったから』といった理由で逃がしてあげるのは、けっして良いことではないのです。

展示されているアライグマは、最近、県内でもあちこちで増えて農作物などに被害をあたえている外来動物です。“あらいぐまラスカル”として漫画などでは愛らしい動物として親しまれていますが、はく製をよく見るとわかるように、ツメもするどくてかなり危険な動物なのです。家の屋根裏にすみついて、家財を傷めたり、畑の作物を食べたりするなど県内でも被害が拡大しています

～希少種について～

多種、多様な野生生物は、生態系の重要な構成要素ですが、近年、地球規模での自然環境の悪化などによって、多くの野生動物が絶滅の危機に瀕しています。

そこで、国や県が、絶滅の恐れのある野生動物の種をリストアップし、生物学的な観点から絶滅の恐れのある種を選び出し、絶滅の危険度を評価し、表にまとめています。それを『レッドデータブック』とか『レッドリスト』と呼んでいます。

これに載っている動物たちは、国全体での絶滅危険度や、それぞれの県ごとの絶滅危険度によって分類されていて、私たちの身のまわりにおいて、野生の状態では非常に少なくなってしまった動物たちです。熊谷市にしか生息していない県の魚、ムサシトミヨも、絶滅危惧種として指定されています。

この企画展では、埼玉県や国で絶滅の危機に瀕している主な動物たちを展示しています。これらの動物たちは森林伐採などの環境破壊や、地球温暖化などの環境の急激な悪化で、個体数が少なくなってしまった動物たちです。

私たちと同じ“サイタマケンミン”でありながら絶滅の危機にある動物たち。私たちはもっと“身近な仲間たち”のことを考えてあげなくてはならないのかもしれない。

そして、動物たちだけでなく、私たちが住んでいる地球全体の環境に関する問題にも、目を向ける必要があるでしょう。

～埼玉県立自然の博物館の紹介～

“過去から未来へ埼玉3億年の旅、
そして自然と人との共生”

埼玉県立自然の博物館は、自然資料を収集・保管し、調査研究して将来へ継承し、埼玉の自然や、人のくらしと自然との関わりを多面的・総合的に扱い、県民に自然と人との共生について考えるための情報を提供する、「自然と人との共生を創出する自然系総合博物館」です。



～博物館外観～

場所：埼玉県秩父郡長瀬町長瀬1417-1 電話：0494-66-0407 H P：http://www.shizen.spec.ed.jp/